

慶應義塾大学

UNICORNS

早稲田大学

BIG BEARS

第70回早慶バスケットボール定期戦
2012
WK
6.2.SAT

*The 70th
WASEDA vs KEIO
Basketball Game*

Time Table

- | | | | |
|--------|-------------------|--------|------------------|
| 09:30~ | 男子Bチーム戦 (7分スル=4Q) | 10:30~ | OG戦 (7分スル=4Q) |
| 11:30~ | O日戦 (7分スル=4Q) | 12:30~ | 開会式 (選手誓約、エール交換) |
| 13:00~ | 女子戦 (10分4Q) | 14:50~ | 男子戦 (10分4Q) |
| 16:30~ | 閉会式 (選手誓約、優勝校表彰等) | | |



部長 大谷 俊郎 | 監督 福島 朗太 | H・コーチ 佐々木三男 | A・コーチ 鈴木 惇志 | トレーナー 山木 伸允 | A・トレーナー 春本 龍彬 | 主務 大槻 健 | 3年学生コーチ 成瀬 啓祐

慶應義塾大学 看護医療学部教授 | 慶應義塾大学 | 日本体育大学 環境情報学部教授 | 慶應義塾大学 | 早稲田大学 | 慶應義塾大学 | 洛南 商4 | 慶應義塾NY学院 経3



かつら りょうま
桂 竜馬
法 4

①CF ②194 ③93
④F ⑤1990/9/4
⑥国立
⑦先んずれば即ち人を制し、遅るれば即ち人に制せられる。先んずる慶應が早稲田を制す。



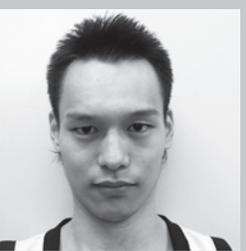
さいとう すぐる
齊藤 優
経済 4

①F ②185 ③80
④B ⑤1989/4/10
⑥静岡
⑦清々爽やかに勝利したいと思います。



のろ しょうへい
野呂 昇平
法 4

①F ②185 ③81
④O ⑤1990/12/27
⑥慶應義塾
⑦絶対勝つ！全員で若き血歌いましょう！



もとはし ゆうすけ
本橋 祐典
環境情報 3

①C ②195 ③100
④O ⑤1992/1/11
⑥佼成学園
⑦陸の王者復活へ。



おおき りょうすけ
大木 峻介
経済 3

①G ②186 ③78
④B ⑤1989/10/20
⑥慶應義塾志木
⑦去年の雪辱を果たす。時ぞ今！



たなか たかひろ
田中 貴啓
環境情報 3

①G ②179 ③70
④A ⑤1991/9/23
⑥福大大濠
⑦自分の役割遂行します。



ちようめい ゆうき
長命 祐樹
経済 3

①F ②185 ③78
④⑤1991/11/1
⑥慶應義塾
⑦昨年の雪辱を晴らします！



なかじま しょうへい
中島 祥平
総合政策 3

①F ②193 ③81
④B ⑤1991/7/12
⑥魚津
⑦昨年の雪辱を果たします！



ひらいし けんと
平石 健斗
環境情報 3

①G ②178 ③75
④A ⑤1991/4/21
⑥慶應義塾
⑦必ず勝ち星を取り返す！全力でチームの勝利に貢献する！



ごんだ りゅうと
権田 隆人
法 2

①F ②190 ③84
④AB ⑤1992/11/30
⑥慶應義塾
⑦気持ち込めて。シュート決めます。



なかむら こうへい
中村 滉平
理工 2

①F ②184 ③91
④O ⑤1992/4/2
⑥慶應義塾
⑦自分のやるべきことに集中して試合に挑みます。



よしかわ じえい
吉川 治瑛
環境情報 2

①G ②183 ③76
④O ⑤1992/8/9
⑥世田谷学園
⑦貪欲に勝利を取りにいきます！



いとう りょうた
伊藤 良太
環境情報 2

①PG ②178 ③75
④O ⑤1992/7/23
⑥洛南
⑦チームの勝利に貢献する。



おおもと たかふみ
大元 孝文
環境情報 1

①G ②180 ③70
④B ⑤1995/7/31
⑥洛南
⑦コートでは誰よりも全力でプレーします。



せいけ さとし
清家 智
経済 1

①F ②186 ③78
④B ⑤1993/4/26
⑥慶應義塾
⑦負けれない一戦、自分の出来る事を考え、全力で実践します



なかじま いっき
中島 一樹
総合政策 1

①PG ②169 ③67
④O ⑤1993/5/1
⑥高崎
⑦自分の出来る事を一杯やり、チームの勝利に貢献します！



ふくもと なおと
福元 直人
環境情報 1

①PG ②185 ③78
④A ⑤1993/4/10
⑥福大大濠
⑦一つ一つのプレイを全力で伝統ある一戦の勝利に貢献します。応援よろしくおねがいします。



まき たつみ
真木 達
環境情報 1

①G ②182 ③72
④A ⑤1993/7/27
⑥國學院久我山
⑦持ち味であるディフェンスとスピードでチームの勝利に貢献したいです。



やまざき さとし
山崎 哲
環境情報 1

①PF ②191 ③85
④B ⑤1993/8/10
⑥秋田
⑦声張っていきます！



くろき りょう
黒木 亮
環境情報 1

①PF ②193 ③82
④O ⑤1994/3/22
⑥延岡学園
⑦初めての経験ですが、自分の役割を果たせるよう頑張ります。



| 氏名 | 学部・学年 | P | 身長 | 体重 | 血液型 | 生年月日 | 出身校 | 自己アピール |
|---------|--------|------------|-----|----|-----|------------|--------------|---------------------|
| えびな 涼 | 法 3 | G | 180 | 80 | A | 1991/6/16 | 洛南 | 昨年の雪辱晴らします |
| やじま 隙 | 総合政策 3 | F | 187 | 78 | O | 1991/5/29 | 福大大濠 | 昨年の屈辱忘れません |
| いしわた 悠真 | 商 3 | 志木高 コーチ | 182 | 72 | B | 1991/11/21 | 慶應義塾志木 | チームに還元。 |
| さが 僚 | 文 3 | 学連派 遣 | 163 | 62 | B | 1990/6/20 | 秋田 | リベンジ！ |
| とおやま 啓一 | 経 3 | 学生トレ ナー | 171 | 58 | O | 1991/4/12 | 慶應義塾 | チームのために貢献します！ |
| ながい 賢人 | 経 3 | 副務 | 171 | 65 | A | 1992/3/29 | 慶應義塾湘南 藤沢 | 今年は勝つ！ |
| あさだ 祐伍 | 経 2 | G | 179 | 71 | B | 1992/12/18 | 慶應義塾湘南 藤沢 | チームに危機感を与えます。 |
| どひ 琢史 | 経 2 | PG | 175 | 63 | B | 1992/9/8 | 慶應義塾湘南 藤沢 | 所作の部分から勝ちます |
| まつむら 直樹 | 法 2 | G | 176 | 66 | O | 1992/12/19 | 慶應義塾 | 勝利にこだわり、全身全霊を！！ |
| やしま 太郎 | 商 2 | G | 178 | 70 | O | 1992/7/1 | 慶應義塾湘南 藤沢 | 必ず勝ちます！ |
| くわはら 竜馬 | 経 1 | G | 178 | 72 | A | 1993/5/20 | 厚木東 | チームの勝利のために全力を尽くします。 |
| たなべ 夏彦 | 経 1 | F | 188 | 73 | B | 1993/9/21 | 慶應義塾湘南 藤沢 | 声出します！ |
| つのだ 佑大華 | 商 1 | G | 178 | 70 | B | 1993/9/30 | 慶應義塾 | 伝統の一戦！勝ちます！ |
| ひらやま 浩樹 | 法 1 | G | 179 | 67 | B | 1993/6/2 | 都立西 | チームの勝利に貢献します。 |
| やまざき 健詞 | 経 1 | G | 173 | 71 | O | 1993/4/17 | 慶應義塾湘南 藤沢 | 伝統の一戦…勝ちましょう！！ |





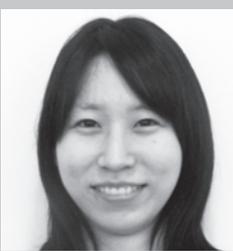
| | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|--------------|-----------------|-------------------|
| 部長 | 監督 | ヘッドコーチ | Aコーチ | 主務 | 副務 | マネージャー |
| 大谷 俊郎 | 斎藤 哲也 | 立花 雅男 | 美川 牧子 | 川村 未来 | 柏木 理沙 | 吉次真秀子 |
| 慶應義塾大学 | 慶應義塾大学 | 慶應義塾大学 | 慶應義塾大学 | 宮崎北高 理工・4 | 東京学芸大附属高 文・4 | 慶應義塾湘南藤沢高 法政・1 |



まえかわ あい
前川 愛
文 4

① G ② 157 ③ B
④ 1990.09.22
⑤ 八雲学園高
⑥ 負けない! 気合い!
愛!

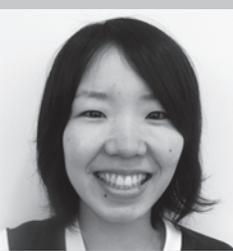
4



しみず かよ
清水 佳世
商 4

① F ② 160 ③ A
④ 1990.07.02
⑤ 穎明館高
⑥ タフだよ! 走るよ! 佳世!

5



かわむら みく
川村 未来
理工 4

① G/主務 ② 161
③ O
④ 1990.10.31
⑤ 宮崎北高
⑥ 強く! 戦い抜く! 未来!

6



かしわぎ りさ
柏木 理沙
文 4

① F/副務 ② 167
③ O
④ 1990.09.23
⑤ 東京学芸大附属高
⑥ 頑張るし! 盛り上げるし! かし!

7



やすい ゆかり
保井 裕香里
経済 4

① F ② 157 ③ A
④ 1990.01.18
⑤ 船橋高
⑥ 粘り! 踏ん張り! 裕香里!

8



しおた みほ
塩田 美穂
文 4

① C ② 164 ③ A
④ 1990.04.17
⑤ 慶應義塾女子高
⑥ やることはやった! 準備は出来た! 塩田!

9



もりした あや
森下 綾
総政 3

① C ② 167 ③ B
④ 1991.04.13
⑤ 慶應義塾湘南藤沢高
⑥ 全力で戦います!

10



たまはし みさき
玉橋 美咲
商 2

① G ② 157 ③ A
④ 1992.07.19
⑤ 新潟県立三条高
⑥ 「け」んじつなディフェンスとジャンプシュートでチームに貢献します。

11



おおoura ゆりか
大浦 由梨佳
商 2

① C ② 164 ③ A
④ 1992.07.22
⑤ 大妻多摩高
⑥ 「い」ちばん高く跳んでリバウンドをもぎ取り、チームに貢献します。

12



かるべ ようこ
軽部 陽子
法 2

① G ② 157 ③ B
④ 1992.11.23
⑤ 柏陽高
⑥ 「お」おきな軌道のスリーポイントを決めて、チームに貢献します。

13



じんない みほ
陣内 美穂
商 1

① G ② 159 ③ AB
④ 1993.6.18
⑤ 慶應義塾湘南藤沢高
⑥ 「う」まれながらのパスセンスを発揮して、チームに貢献します。

14



とらいわ りか
虎岩 里佳
商 1

① F ② 160 ③ AB
④ 1993.8.18
⑤ 慶應義塾女子高
⑥ 初めての慶早戦、頑張ります!

15



さかい あや
酒井 亜弥
看護 1

① F ② 159 ③ O
④ 1992.12.20
⑤ 愛知淑徳高
⑥ 強気で臨みます!

16



えんどう まお
遠藤 真央香
理工 1

① F ② 160 ③ AB
④ 1994.2.26
⑤ 横浜平沼高
⑥ 精一杯声出します!

17



しゅうとう あやな
周東 彩菜
文 1

① G ② 158 ③ A
④ 1993.5.10
⑤ 日比谷高
⑥ 声を出して頑張ります!

18





慶應義塾大学



陸の王者復権へ 慶應

2011年シーズン、我が慶應義塾体育会バスケットボール部は、春の初陣となる関東トーナメントでベスト16に終わり、20年ぶりの勝ち越しをかけた慶早戦でも、大差での敗北と非常に悔しい形で春シーズンを終えた。巻き返しを図った秋シーズンのリーグ戦では一部十位、入れ替え戦での敗北により2部降格、更にはインカレで初戦での敗退・ベスト32に終わり、一年を通じて苦汁をなめ続ける形となった。

本年度は「コミットメント」というスローガンを掲げた。その意味するものは、各個人がチームに主体的に取り組むこと。前年度に味わった悔しさを晴らすために、全員で勝利に向かって突き進む。

現在慶早戦の通算成績は34勝35敗。今回何としても勝率をタイに引き戻し、来年度の勝ち越しへと確実に繋げたいところである。昨年度の大敗に涙をのんだ本塾。あの時の雪辱を晴らすため、再び立ち上がる！

4年生の意地

真価が問われる今年のチーム。その中で、少人数ながらチームを引っ張る4年生を紹介しよう。

本塾の主将・桂竜馬(No.4)。1年次からベンチに入り、試合に絡んできたものの自分のプレーを確立し切れなかった。しかし今年こそは、慶應のバスケット

を誰よりも体現し、高身長から繰り出される美しいシュートとそれを活かすクレバーさで本塾の屋台骨となる。今年の桂に乞うご期待！

続いて紹介するのは、齊藤優(No.5)。チーム1の跳躍力を活かしたジャンプシュートと果敢に飛び込



4年・桂 竜馬(No.4)

絶対的戦力

今年の慶應は2・3年生の活躍が勝利への絶対的条件である。そこで、今年の慶應のキーマンとなる選手を紹介しよう。本橋祐典(No.7)である。力強いリバウンドからパワーシュートを決めたと思えば、ロングシュートも軽々と決める。これ以上守りにくい選手はいないだろう。熱いハートを持って試合を支配する！

今年の慶應は2・3年生の活躍が勝利への絶対的条件である。そこで、今年の慶應のキーマンとなる選手を紹介しよう。本橋祐典(No.7)である。力強いリバウンドからパワーシュートを決めたと思えば、ロングシュートも軽々と決める。これ以上守りにくい選手はいないだろう。熱いハートを持って試合を支配する！

そして、3年生内部生三銃士の一人・大木峻介(No.8)に注目してほしい。大型ガードとして入学時から期待されてきたが、今年はエースキラーとして相手のエースを次々に封じてきた。早稲田も彼のすっぱんディフェンスに舌を巻くだろう。無尽蔵のスタミナで相手へプレッシャーをかける！

幻自在のステップから繰り出されるレイアップにも注目してほしい。最後の一人は、本塾のガッツマン・野呂昇平(No.6)。内部生として慶早戦に懸ける思いは誰よりも強い。高確率なミドルシュートと泥臭いプレイでチームに勝利をもたらす。この3人にチームの命運は託された！

継続するのは、平石健斗(No.12)だ。持ち前の運動能力を最大限に生かしたプレイで代々木のコートを走り回る。更に、オフセンスにも磨きがかかってきており、彼の得点にも期待してほしい。平石・大木とは対照的にクールで冷静な判断から絶妙なプレイを連発するのが、長命祐樹(No.10)だ。長い手足とバスケットIQを活かしたスティール・相手の裏をかくパスなど玄人好みの選手だ。この内部生三銃士の活躍が慶早戦優勝には絶対不可欠である。血のじむような努力を重ね、年々プレイタイムを伸ばしているのが、田中貴啓(No.9)だ。決して運動能力が高いわけではないが、反復練習により生み出される高確率なシュートと持ち前の負けん気でチームに勢いを与える。そして忘れてはいけないのが、中島祥平(No.11)だ。1年時から本塾のスターティングメンバーに名を連ね、輝かしい実績に貢献し、昨シーズンのリーグ戦では、その得点能力を開花させた。正にアンストッパブルな選手へと成長した中島がチーム



1年・大元孝文(No.17)

2年生には昨年、飛躍的に成長をし、今やエースガードとなった本塾の魔術師・伊藤良太(No.16)がいる。昨年はリーグ戦で、完全アウェイの東海大学戦で勝ち越しのブザービーターを決め、勝負強さを見せた。今年は得点力・ゲームメイク共に磨きがかかり、本塾のトランジションゲームを華麗に演出する。昨年、チームの危機を幾度となく救ったのが権田隆人(No.13)だ。1年生ながら強気な姿勢と正確なシュートを武器に得点を量産。今年は権田の得点力により一層の期待がかかる。その権田と高校時代から共にプレイをするのが中村晃平(No.14)だ。入部当初100kg超だった体重を

を勝利に導くことだろう。上級生としての自覚が芽生えた個性あふれる3年生に、チームの運命は託された！

見事に減少させ身軽になった中村は、体の幅を使ったフックシュート、びくともしないボックスアウトでチームに貢献する。早稲田は中村の巧みなプレイに翻弄されることだろう。吉川治瑛(No.15)は、とにかく得点に対するこだわりが強い。常にリングを狙う姿は『スナイパー』の異名をとるほどだ。大学レベルのスコアラへ成長した吉川が早稲田ディフェンスを粉碎するだろう。

2年生のあくなき向上心から生まれる精度の高いプレイに注目してほしい！

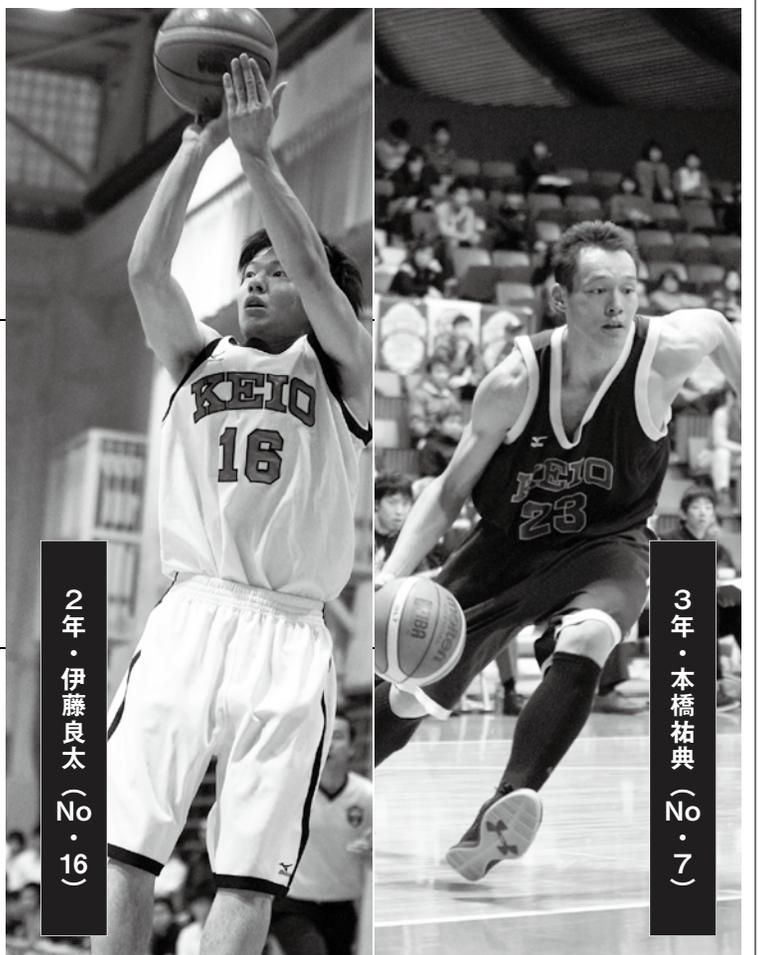
充実の新戦力

今年の新生は近年ではない程の充実したメンバーが揃った。

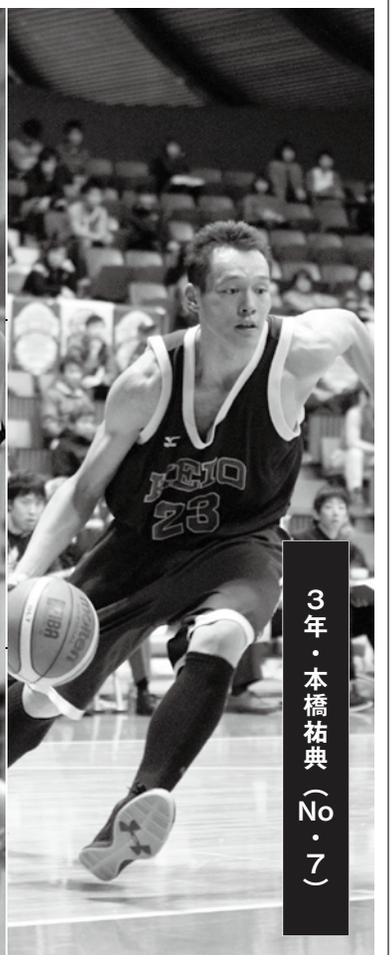
まず紹介するのは、大元孝文(No.17)。名門・洛南高校から4年連続の入学となったが、その才能をい

かんなく発揮し、早くもチームには欠かせない存在となっている。特筆すべきは、美しいジャンプシュート。お手本のようなフォームから繰り出される正確無比なジャンプシュートは見る者

を魅了する。黒木亮(No.23)は、延岡学園高校出身で、高校3冠を成し遂げ、鳴り物入りで入学。本塾では早くもスターティングメンバーとして活躍をしている。リバウンド・ブロックで1年生とは思えないような活躍を見せている。更に、ミドルシュートの精度も高く、非の打ち所がないプレイヤーである。次に、高校時代、抜群のリーダーシップでウインターカップベスト5に輝いた大型ガード・福元直人(No.20)だ。堅実なプレイをした直後にトリッキーなパスを出すなど、そのプレイは変幻自在で相手ディフェンスを戸惑わせる。真木達(No.21)は、抜群のクイックネスを武器に相手ディフェンスを切り裂く。一瞬の出来事にディフェンスは立ち尽くすしかないだろう。山崎哲(No.22)は、長身を活かしたりバウンドと、予測不能なムーブにより、相手のファールを誘う頭脳派プレイヤーである。



2年・伊藤良太(No.16)



3年・本橋祐典(No.7)

結 束 の 時

昨年度本塾は、体格や個人技で勝る他チームに対抗すべく、チームで守りチームで攻めるという慶應バスケットを体現し、数々の激闘を繰り広げた。

しかし秋のリーグ戦は「二部昇格」という目標には程遠い、三部一七位という成績に終わり、納得のいく結果を残すことは出来なかった。

この悔しさから、今年のチームは「結果を出す」という年間目標を掲げた。公式戦での勝利はもちろんのこと、練習試合や日々の練習から常に「結果」にこだわり、一人ひとりが勝利への執着心を持ち続けている。また、本年度から、ヘッドコーチに立花雅男氏、アシスタントコーチに美川牧子氏を迎え、慶應女子のバスケットに新風が吹きこんだ。そんな本塾のバスケットから、今後も目が離せない！

本塾の要

それではこれから、本年の個性豊かなチームをまとめる四年生たちを紹介しよう。

昨年度から本塾の中心的存在であり、チームメイトから絶対的な信頼を得ている、主将#4前川愛。これほどまでに頼れる主将が他にいるだろうか。

絶妙なパスさばきで仲間を生かすと共に、自らも果敢にゴールへ向かう、まさに本塾の要だ。最上級生となった今年、最後の早慶戦で最高のプ



主 将
前川 愛 (#4)

リーを見せてくれるだろう。

誰もが認めるチーム1の努力家、副将#5清水佳世。練習中からコート内外で声を出し、チームに活気を与える。勝負所での華麗なジャンプシュートや、誰にも止められない鋭いドライブは必見！四年間の努力の成果を、代々木のコートで発揮してくれるはずだ。

本年度選手兼主務を務めている、#6川村未来。彼女の広い視野から生まれる的確すぎるパスは、見る者を魅了する。また、軽快なフットワークから繰り出される攻撃的なドライブも見所だ。常に全力でプレーし続ける彼女のその姿はいつもチームメイトに力を与えている。

現在はリハビリに励んでいる#7柏木理沙。見た目の可愛さからはかけ離れたアグレッシブなプレーでチームを牽引してきた本塾1のポイントゲッターだ。再びコートに戻り、その気迫みなぎるプレーでチームを救ってくれる日は、そう遠くないだろう。

怪我から驚異的な早さで復帰を果たした、#8保井裕香里。スタミナとパワーは誰にも負けず、その力強いプレーはまさにチームの大黒柱。要所でのシュート力は折り紙付きた。バスケットの知識、経験共に豊富な彼女は、仲間への確かなアドバイスを与え、チーム全体のレベルアップに大きく貢献している。

長いリハビリに耐え抜き、コートに帰ってきた#9塩田美穂。センターとして本塾になくはならない存在となった。オフエンス、ドライブに共に奮起し、安定感のあるプレーを見せる彼女のインサイドでの働きが試合の鍵を握



副 将
清水佳世 (#5)

確固たるチームワーク



3 年
森下 綾 (#10)

ここからは、四年生を支える、チームに勢いを与える二三年生たちを紹介する。

チーム1クールな#10森下綾。巧みなステップワークとバリエーション豊富なシュートが持ち味だ。昨年度よりパワーアップした身体を武器に、リバウンドを量産しチームに貢献する。インサイドの要でありながら、速攻の先頭をも走る彼女の渾身のプレーからは一時も目が離せない！

チーム1の肩幅を持つ#11玉橋美咲。下級生ながらも様々な試合経験を積んできた彼女の安定したプレーからは、もはや貫禄さえ感じられる。バスケットセンス溢れる優れたベネトレイトは相手を圧倒するに違いない。チーム1のふくらはぎを持つ#12大浦由梨佳。その跳躍力と長い手足を生かしたプレーは観客の度肝を抜くだろう。敵を欺くパスと意表を突

つている。四年生にとって最後となる今年の早慶戦。それぞれがこの一戦にかける熱い思いを、四年間の集大成として代々木の舞台で見せてくれるはずだ！

いた一対一が見所の、ひと味違ったセンターだ。

チーム1の俊足#13軽部陽子。素早いドリブルで相手を抜き去りコートを縦横無尽に駆けめぐり。美しいループを描くスリーポイントシュートにも注目してほしい。

そして、今年新たにチームに加わった一年生たち。既にチームになくはならない存在となった。それぞれが自らの持ち味を存分に発揮し、勝利に貢献してくれるはずだ。

本年度は例年になく小柄なチームとなった本塾だが、どんな相手にも臆せず立ち向かう、揺るぎない結束力を手に入れた。チームの一人ひとりが自らの役割を全うし、皆の心が勝利という一つの目標に向かった時、その力は無限大だ。

それでは、選手・スタッフが一丸となって戦う、本塾のバスケットをとくとご覧あれ！



慶応義塾大学
H・コーチ
佐々木三男

早稲田大学
総監督
倉石平

——指導者としてのお互いの印象は

倉石総監督 佐々木先生は女子のすごくキメの細かいバスケットをやられていたので、戦術・戦略に関してもすごく細かい所まで指導されているという印象はありますね。現実そういうバスケットを展開されていますし。昔の慶應のバスケットという少し大雑把な印象があったんですけど、今はそんなことはないですよ。すごくこだわりを持ってやられているという印象があります。

佐々木HC 倉石さんはずっとJBLで指導なさっていたので、選手に対して、メンタルにおいてもフィジカルにおいても強さを求められているという印象があります。あとは、選手の操縦術にすごく長けていて、ここの所うちは早稲田にやられていますけど、その2つでやられていますね。心と身体を強くすること、それから選手の育成において、シューター、インサイドなど、それぞれのポジションで強い選手を育てるのが上手だなという印象です。

——早大にやられている、という意味では昨年の早慶戦も早大の完勝でした

倉石総監督 去年はうちにとっては何年間か計画していた中の頂点だったわけで、逆に慶應からしたら強い選手が何人も抜けて結構辛かった年だったわけで、それがたまたま合致してしまったのがああいふ結果に繋がったのかなと思います。あそこまでの実力の差はなかったんですけど、びっくりした分の点数の差が出たのかなと思います。

——早大にとって、昨年のチームは理想的な形のチームだったのでしょうか

倉石総監督 あれだけ連続してゲームをこなして来ていたので、そこまで大きなポカはしないだろうという感覚はあったのですが、内心は不安を抱いていたというのが現実でした。

——佐々木HCは昨年の早慶戦を振り返っていかがでしょうか

佐々木HC 去年は歴史にない程の大敗だったので、

私としてはすごく責任を感じています。倉石さんが言われたように、去年はレギュラーが抜けてしまって苦しいシーズンではあったのですが、それまでのチーム作りというのが上手な子に頼っていたということがあったので、その反動がああいう差になって表れたと思います。今までだと悪い状況になっても、プレーを変えさせたりすると、少しはリズムを戻すことが出来たのですが、去年は全くそれが出来ませんでした。私としてはすごく早いタイミングでタイムアウトを取って、手当てをしたつもりだったんですけど、それが歯止めにならなかったということで、ある意味完敗だったかなと思います。

——ありがとうございます。それでは今までの早慶戦を振り返って頂きたいのですが、お二人の中で思い出に残っている早慶戦はありますか

倉石総監督 自分はいいことしか覚えていません(笑)。その中ではっきりしたい思い出といえば、3年前にインカレで優勝しているようなチームに勝った試合ですかね。確かあの年は慶應がインカレで準優勝した年で、選手もいいメンバーがいた訳で、僕らとしたりと厳しい状況だったんですけど、トーナメントで負けたのと相まって、選手には徹底してスローダウンするように言った訳で、元々慶應は80点、90点取るようなチームでしたけど、それを相当ゆっくりなペースにして、60点台のゲームに下げたら、結構リズムを崩してくれたので、自分としてはしてやったりという感じでした。ただ1回しか通用しませんでしたけどね。2回目になったら大敗でしたから。10回やったら1回しか勝てないような所を早慶戦の時はたまたま勝つことが出来たという感じでした。

佐々木HC 私はキャプテンが加藤(加藤将裕)の時です。公輔(竹内公輔)と泰滋(酒井泰滋)が抜けた年かな。あの時はあんまりチームがいい感じではなかったんですけど、少し練習で徹底をして、色んな作戦をやったのがたまたまキャプテンの調子が良かったこともあって、勝つことが出来たので、そのことは印象に残っています。あともう1つは確か会堂でや

った試合で、私にとって初めての早慶戦だった年です。まだ倉石さんはいなかったと思うんですが、それは印象に残っていますね。

——選手達は早慶戦といういつも以上に気合いが入っている印象がありますが、指導者であるお二人にとって、早慶戦というのはどのような位置付けなのでしょう

倉石総監督 春では1番のビックイベントですね。トーナメントは優勝するに越したことはないですけど、秋に向けた前座のような意味合いもあるので、そこまで重きを置く訳でもないですし、秋に備えるという格好なんですけど、早慶戦だけはそういう訳にはいきません。どんな手を使っても勝ちたいというのがあるので、春の中では1番大事な試合ですね。早慶戦の後に新人戦があったりすると、いつも1回戦負けなんですよね(笑)。新人戦を軽視したい訳ではないんですけど、軽視せざるを得ないです。それぐらい大事な大会ですね。

佐々木HC 僕がやり始めてからは、春はトーナメントと早慶戦という2つのピークを作ってやっています。トーナメントで上手くいかなくても、早慶戦というどこの大学でも経験が出来ない様な大事な試合が残っているということで指導者としてはすごくやりやすいです。学生はすごく意気込んでやっていますよ。私からすると、もう少しリラックスしてほしいぐらいなんですけど、でもそれは誰もが経験出来ることではないので、ほとんど放っていますけどね。むしろもっとテンションを上げていけというようなことを言ったりもします。それぐらい大事な大会ですよ。

——そういう意味では選手達は緊張してなかなかシュートが入らないということも見受けられます。早慶戦にはそれだけ独特の雰囲気がありますね

佐々木HC 僕に言わせれば、インカレの決勝と比べても早慶戦の方がお客さんも多い訳で、ああいふ大舞台を経験しているんだから、「インカレで緊張して力を発揮出来ないなんていうことはありえない」ということをたまに言うこともありますよ。そ

れだけ選手達にとっては大きな経験が出来る訳だから、過緊張するぐらいやって、尚且つ早稲田に勝つことが出来れば、相当な自信になるのではないかと考えてますけどね。だから、どんどんテンションを上げさせますよ。インカレで優勝しても早慶戦で負けてしまっただけでは、「早慶戦負けた代だよ」とずっと言われ続ける訳なので。

——倉石総監督からは選手個々の能力を上げるというお話がありましたが、そういった選手の育成もあり、一方でチームも作らなければならないという事で難しさがあると思うのですが

倉石総監督 試合をやる以上は勝つことを優先させなければいけないけれど、それで選手が犠牲になってダメになるということは避けたいと思っています。チームにとって仕方ない負けがあったとしても、その選手が将来「ありがとうございました」と言えるぐらい、もしくは日本の中で強いリーダーシップを発揮出来るような選手に育ってくればよいと考えています。それを選手に言ったら「ふざけるな」と怒られちゃうかもしれないですけど、逆に言うとその風にしていかないといけない4年間なのかなと思います。

佐々木 HC 今年卒業していった選手達には言ったんですが、場面が変われば人の評価も変わる。だからこの4年間で、何で俺を使ってくれないんだと思っている学生はたくさんいると思いますよ。でも卒業して社会に出たりすると、それが違った意味で評価されて、この4年間で良かったと思える日がきくと来るだろうと思っているんです。「お前なんか使えない」と言うことはありますよ。だってそこまで背が大きくない、身体能力が高い訳でもない、そういう選手はいくらでもいますから。だったら違うことを磨かないとダメでしょう。今年の卒業生で、一回も試合では使わなかった学生から「この4月に新しい会社に入る時に、新入社員代表でスピーチをすることになりました」というメールが来たんです。バスケットでは使えないと言っていた学生が、違う形できちんと評価されているということで、それは大

変良かったねと言ったんです。ある意味、ここでの4年間が無駄ではなかったということだと思うので、そういう学生がたくさん出て来て欲しいと思ってますよ。

——ありがとうございます。それでは話を早慶戦に戻します。今の両校のチーム状況を教えてください

倉石総監督 今年はトーナメントが早いんですよ。だから、さっき佐々木先生がおっしゃったピークのことと言えば、限界があって2月からしか練習が出来ていないので、そう考えると今は手探り状況なんです。3月に六大学があって、いま電鉄杯をやっている、ある程度の戦力的な問題は解決出来ると思うけど、じゃあそれを1週間後のトーナメントにすぐ反映出来るかと言うとすごく難しいですよ。それから3週間が空いて早慶戦なので、その間を上手くコントロールするというのも難しいですね。そういう意味では今までの早慶戦で1番難しいかもしれないです。トーナメントがたった2週間ずれているというだけで、大きな違いがありますよ。この試合自体があと3週間ずれていたら、もう少し真剣にやれることがありますよ。でも今はあまり手の内を出したくないというのもあるので、そう考えると、この電鉄杯自体がほとんど無意味に近いものになっている感じはありますね。早慶戦に向けての戦術なんて想像も付いていないですよ。

佐々木 HC 今までの早慶戦を見ても、弱い方が頑張ると言うことがあったように僕は思っているんです。ところが去年、あれだけの大敗をしてしまったので、今年はそれこそ是非でも勝ちたいと思っています。ただ、去年からの悪い流れを断ち切れていないということの中に、怪我人が出てしまうということがあります。それも試合に出なければいけない学生から怪我をしている。今年はさっきも言ったように1点でも多く点を取って勝ちたいということでスタートしたのですが、今の所は大ピンチですよ。状況は非常に苦しいです。

——目指すスタイルは見えてきていますか

倉石総監督 うちのサイズがないので、やることは1つしかないですよ。平面で勝負するしかない。おそらく1部・2部でも1番小さいので、立体で勝負されたら圧倒的に負けてしまいます。なので、高さを使われないようにということでやっています。

佐々木 HC 慶應としては、今190cm以上の選手が5人いるのですが、それは私の知っている中ではなかなかないことです。2mはいたけれど190cm台はいなかったりしたので。でもそのうち今元気なのは2人しかなくて、しかも他のポジションを見ても、試合に出ないといけない学生が4人怪我しています。それが早慶戦までに間に合うかという、あまり期待出来ない状況です。もしその学生たちがいたらという戦術は2月から青写真は作っていたのですが、それが壊れてしまいました。

——今年の早慶戦でキーマンとなる選手を教えてください

倉石総監督 うちの看板が河上なので河上の得点力と、あとは大塚がどれくらいゲームをコントロール出来るかということですよ。それはどのチームも知っていることだけど、それ以外にないので確実にキーマンですよ。

佐々木 HC うちのガードの伊藤がだいぶ落ちてきたので、それはあまり狂わないだろうと思っています。それとあともう1つは矢嶋の得点力に春からずっと期待をしていて、そういうチーム作りをしてきたんですが、ああいう怪我になってしまったので、ある意味御破算になってしまいました。だからキーマンというか、これから矢嶋の穴を埋めて欲しいと思うのは1年生ですかね。大元やまだそんなに使っていない福元に期待するしかないですね。

——お互いのチームについての印象は

倉石総監督 さっき佐々木先生がおっしゃったように、慶應は全員がレディの状況ではない訳で、1回六大学の時に試合をやったけど、その時は慶應さんが何人かなくて、うちは全員いた。それでは試合にならないんですよ。だから、1人1人の個々については分かっているけど、全員が揃った時にどう



いう雰囲気になるのかというのは、やってみないとわからないです。

佐々木 HC この所、倉石さんがやり始めてからはディフェンスが強くなってきているので、そこは我々にとっては打ち破らないといけない部分なので、これからの練習で早稲田のディフェンスをいかに掻い潜るかということをやらないといけないかなと思っています。

——1年生はスタメンで起用する可能性もありますか

佐々木 HC 矢嶋がいなくなってしまったので、使わざるを得ないと思います。ただ、今怪我しているキャプテンの桂が早慶戦までに戻ってくれば、少しは穴を埋めてもらえるのではないかと考えています。——早大にも1年生が入ってきて、何人かは試合にも絡んできています

倉石総監督 今まで新人が即戦力に加わってきたことってそんなにないので、それを考えたら今年の2人は計算出来る2人ですね。その辺はうちにとってはすごくプラスかなと思っています。

——ありがとうございます。それでは最後に、早慶戦を楽しみにしているファンの方にメッセージをお願いします

倉石総監督 必ずや観ている人に感動を与えられるはずなので、お見逃しなく。

佐々木 HC 去年みたいな大敗は御免なので、熱烈な応援をして頂けたらと思っています。選手がいなくなっているんで、もう応援して頂くしかないですね(笑)。

——早慶戦を控えて今どのような心境ですか

大塚 特にどう感じるというか、ただ単に勝つっていう感じでやっていきたいなと思います。勝ちにこだわります。

桂 春シーズン最大のイベントだと思うので、目の前の試合もちろん目標としたいのですが、早慶戦は絶対に勝ちたいなというのはあります。

——上級生になってみて昨年までと気持ちの面で変化した部分はありますか

大塚 いや、特には。

河上 いつも通りですね。

桂 そうですね。4年生になったからと言ってやることが変わったわけではないかなと思います。

——それぞれ選手の部内での印象を教えてください

河上 大塚さんは本当に信頼されていて、大塚さんが言うことはみんなが信頼しているみたい。つまり、早大は大塚さんのチームです(笑)ミーティングも去年の倍ぐらい多くて、コミュニケーションでもリーダーシップをとってくれるし、みんなが話せる場を作ってくれているのすごくいいです。

大塚 河上くんは早大のエースです。攻守ともにエースです(笑)

河上 今日の試合へっぽこでしたけど(笑)

大塚 部活中はサボるところはサボって、うまくやっています。

河上 (笑)

蛭名 慶大ってほしい4年生が引っ張るっていう意識が強いんですけど、昨年振るわなくて、今年はその分色々な意見を取り入れようということで、今年の4年生は桂さんを中心に下級生からの意見を取り入れようとしてくれています。フランクな関係ですかね。

桂 4年生だからとか上級生だからとかは無くさなきゃいけないのかなど。蛭名は後輩ですけど本当に頼れる存在で、厳しいところは厳しく言いますし、その場に依じて必要なことを行動してくれるので見習うところはすごく多いです。

——思い出に残っている早慶戦をそれぞれ教えてください

河上 僕は2回しかやっていないのですが、やっぱ



り勝った去年のほうですね。

蛭名 考え次第ですね。2回しかやっていない中でいい思い出だったのは勝ったほうだし、悪い思い出なのは…。

河上 逆に悪い思い出としては負けたほうなので。

蛭名 日経の別冊に昨年の早慶戦が取り上げられていたんですけど、そこに「史上初の百点ゲームで大敗を喫した慶大」みたいに書かれていて、普通に萎えました(笑)

一同 (笑)

大塚 去年のはそこまででもないですね。どちらかと言ったら1年生の頃の勝ちも嬉しかったけど、2年目で自分が出て負けた時のほうが印象に残っています。ガードで出ていたので先輩への責任も感じましたし、二ノ宮さん(トヨタ自動車アルバルク)とやるのも最後だったので勝ちたかったんですけど。とにかくうまくて、あの時は何もできなかったです。

桂 去年は負けて悔しい思いであったり、一昨年は勝って嬉しかった思い出もあるんですけど、1年目は春に2回電鉄杯とかトーナメントで試合して

20点差ぐらいで慶大が勝っていたのに、早慶戦になつたら負けちゃったんですよね。早慶戦って実力だけじゃなく独特の試合感があって、ただ単に実力勝負じゃないんだなって思い知らされた1年目は思い出に残っています。

——昨季は早慶戦を機にその後の両チームの明暗が分かれたようにも感じたのですが、いかがでしょうか

河上 もちろん勝つことは大事なことで、やっぱり勝ってこそ意味があるというのは思いますけど、僕らは毎試合一生懸命取り組んだ結果がああいうかたちになったので、勝つためにみんな練習も頑張っていて成果としてそういうふうに出るのはいいことだと思います。

大塚 その通りです。

桂 早慶戦もその前のトーナメントから勝つ経験は少なかったんで、負の連鎖のようなことが起きていたかなと思います。接戦を落とす場面も多かったですし、今思えば引きずってしまった部分も無くはなかったのかなど。毎試合、毎試合区切ってやろう



というのはあったんですけど。

蛭名 もう大敗だったので、その後の試験に響きました(笑)

——早慶戦というのは自分の中でどのような位置付けですか

大塚 早慶戦だけに合わせるというのはないですね。公式戦にも合わせなきゃいけないし、まあちょっと時間が空く中でという感じです。公式戦ではないと思いますが、モチベーションを持っていきにくくはないです。

河上 やっぱりあれだけ人が入るので、楽しみです。そういう雰囲気を楽しみたいです。1年間で一番注目される試合とか、あれだけ観客が入る試合はないのですごく貴重な経験だし、頑張ろうというモチベーションにつながります。他の試合にも気合は入ってるつもりですけど(笑)

蛭名 全部一緒に見ようと思うと区別はできないですね。定期戦も公式戦も同じくらい重要ですけど、そこで区切って見てみると普通の試合とは違うので、士気は高まるなという感じです。

大塚 うまくまとめてくれたね(笑)

——今年の話に移ります。両チームのキーマンを教えて下さい

大塚 キーマンは…。誰だろうね(笑)

河上 でも全員バスケットを心掛けてやっているの、



ゲームに出ている人だけでなく全体の雰囲気も大事だし、そういうところから見てほしいかなと思います。

蛭名 本橋ですかね。やっぱり一番このチームで伸びしろがあると思うので。1年生もすごいんですけど、まあ1年生に期待してしまったら終わりだと思いますし、やっぱり本橋が成長しないと来年の僕らはないので。

大塚 慶大が本橋ならこっち二宮で(笑)

蛭名 でも二宮うまくなってますよね。

——今年の特徴は何でしょうか

大塚 変わったのは久保田さん(パナソニックトライアーズ)ですけど、やっぱり小さくなったので。インサイドが小さくなったのでどちらかと言うとアウトサイド中心になるかなとは思いますが、でもその中でも去年から継続しているディフェンスのことだけしか言われていないというのが現状なので、ディフェンスには重きを置いています。

河上 ブレイクはたぶん去年よりも破壊力があると思うんですけど、ハーフコートのディフェンスがダメというか、まだ見えてこない感じですね。

桂 慶大も家治さん(前主将)がいなくなって、ディフェンスでリズムを作って走ってうちの流れにするときはいいと思うんですけど、個人の得点力という点ではまだちょっと課題があるかなと思うので、

一人で打開する力とかは今後伸ばしていかなくてはいけないなと思います。

——お互いのチームについてはどういう分析をしていますか

大塚 とりあえず走ってきますね。

河上 そうですね。ケガ人が多いのでなかなか見えてこないというのがありますけど、スタイルとしては前から仕掛けてくるトランジションのイメージがあります。そこは気をつけたいです。

大塚 逆に見えてこないからこそ、ハーフコートとかは怖いよね。

蛭名 僕らも桂さんが言ったように流れがいい時はいいけれど、でもそれ以上に早大の速攻が怖いです。中でも玉井が走ってきて、しかもリバウンド取る前とかに走り出して大塚さんがいいところにパスを通すので、あれは止められないですね。玉井をスピードに乗せると本当に止められなくて、それで河上がリバウンド走ってきたらこっちの流れを止められるので。持っていられないようにするにはオフェンスを組み立てるだったり、ディフェンスへの切り替えに常に集中しないと、本当に流れが怖いです。外のシュートも兎大(木村)とかめっちゃ入りますし。

桂 去年も序盤やられたのは立て続けに走られて、最初で10点差以上ついちゃったので、今回はそこを対応したいですね。



——最後に、早慶戦を観戦しに来てくれる方々へのメッセージをお願いします

蛭名 野球の早慶戦とかぶっているのに来てくれるんですよ。

桂 バスケットを選んでくれてありがとう。

一同 (笑)

河上 去年もそうでしたけど、今年の早大もベンチを含めてすごい賑やかなので、そういう雰囲気も観客席で見てくれたら楽しめると思うし、チーム一丸となっているところを見てほしいです。

大塚 真面目だな(笑)河上が試合中に1つ面白いことをやってくれるので、期待してください。

河上 何かやります(笑)大塚さんも何か面白いことやってくれると思います。

大塚 真剣に魅せるプレーをします。余裕があれば。

桂 学生スポーツらしい試合を見せられたらと思うので、プロじゃ見せられないような、僕らの早慶戦という学生らしい泥臭さとか雰囲気とかで、観客のみなさんに感動を与えられたらと思います。

大塚 妹と似てるか判断してくださいでいいじゃん(笑)(桂の妹は早大バスケット部に所属)

一同 (笑)

桂 家庭内での早慶戦ですね(笑)

蛭名 早慶戦は結構注目されているものなので、野球並みの盛り上がりを見せられたらと思います。



—まずは皆さんのキャラを教えてくださいか

二宮 玉井は自由奔放というか、すごい自分のやりたいようにやってる印象ですね。

玉井 二宮は…おせっかいです、かなり。

二宮 おせっかいていうな(笑)。

玉井 人のことを第一に考えるというか、自分のことはどうでもいいみたいな。

中島 本橋は…オフの日とかはあんまり絡みはないんですけど、とりあえず、バスケのことについては熱いです。

本橋 中島は、なんか不思議なやつってイメージが強いです。

—過去二年間振り返って

二宮 去年一昨年はA戦で出たことはなんとも言えないんですが…勝ちたいっていう思いは強いですね。

本橋 勝ちたいよね。

二宮 うん、勝ちたいね。

玉井 毎年力の差があるにしろないにしろ、勝ち負けに関係なく盛り上がる試合がしたいっていうのは思っています。お互いに高め合っていい試合が出来ればいいですね。

本橋 さっき玉井も言ったんですけど、実力差関係なくすごく盛り上がる試合なんで、まずはその雰囲気を楽しむこと。早慶戦独特の盛り上がる雰囲気を体感できれば、それが一番良いんじゃないかなって



中島 祥平
No.11

本橋 祐典
No.7

慶應義塾大学 UNICORNS

思います。

中島 上級生になってチームを背負っていきって言う気持ちも強くなっていく中で、この早慶戦も慶應の代表としてやっていくので、応援してくれる人のためにも頑張りたいと思います。

—去年と今年のチームの違いについて

二宮 去年は久保田さんがいたので、攻め方としては久保田さん中心だったんですけど、今年はその久保田さんが抜けて、でも他の4人は同じなので、そんなにガラッと変わりはしないと思います。でも得点源が河上だけになってしまうことも多いので、ディフェンスをしっかりとやって、そこから速攻を出すってやり方になってますね。

玉井 去年は久保田さん中心で全部攻めていて、所々重たくなる所もあったんですけど、今年のチームはボールが良く回るようなチームなんで、自分的にもそうですけど、みんなやりやすいいいチームになってるのかなって思います。

本橋 去年は家治さんっていうスコアラーがいたんですけど、今年は抜けてしまっ得点を取れる人がいない状況なので、ディフェンスから頑張るといいうのは毎年変わらないんですけど、今年は特にそこをより強くやっていかなきゃいけないチームです。

中島 本橋も言ったんですけど、家治さんっていうポイントゲッターがいなくなったので、よりチーム全員でバスケットをしてなければいけないと思っています。

—相手チームの印象について

二宮 プレーがアグレッシブで激しいチームだっていうのはこの前やって思いましたね。

玉井 去年は家治さん中心だったと思うんですけど、今年はチームプレーでやってくるチームになったんで、逆に怖いっていうイメージは強いですね。

本橋 玉井君の言ったことと被るんですけど、去年は久保田さん中心に攻めていて、けど今年は去年に比べて的が絞れなくなりましたし、全員がオフェンスに参加してくるんで、守りにくい印象が強いです。去年よりも連携が取れている分、破壊力があって怖

いです。…でしょ？(笑)

二宮&玉井 でしょ？(笑)

中島 直接やったのは六大学だけだったんですけど、その時も短い時間で一気にやられちゃったんで、一瞬の集中力というか爆発力があるチームだなと思いましたね。後は、速い展開の攻撃が増えたんで、そういう意味ではお互い早い展開のバスケットですし、早慶戦は面白い展開になると思います。

—プレー面でのお互いの印象は

玉井 超頑張りやというか、リバウンドに超参加して、みたいなイメージがあります。

二宮 確かに。すっげ一面倒臭いコイツ(笑)。

玉井 中島は、外からシュートをガンガン打ち込んでくるよね。

二宮 この二人対照的じゃね？

中島 めっちゃ極端だよ(笑)。

中島 玉井君は、イヤなところでスリー決めてきますね。去年の早慶戦でもやられましたし。後は、すごく速いですね。スティールとかもバンバン決めてきますし。

本橋 うん、速い(笑)あとは、流れを読んでいて、イヤなところでこっちにとってイヤなプレーをやってくるね。波に乗らせると凄い厄介です。

—玉井さんは、慶應キラーな印象が強いですが

一同 (笑)

玉井 慶應とやってる時だけ調子いい気がする。

本橋 大体玉井にやられる。

中島 厄介だよ(笑)。

本橋 二宮は、とにかくゴリゴリ(笑)。

中島 パワーだよ(笑)。

本橋 最近ミドルシュートが入り始めたんで、余計に厄介です。

中島 あと、二宮君のいいプレーとかがあると、ベンチが凄い盛り上がる。

玉井 それは間違いない(笑)。

中島 一気に流れもってかれちゃうよね。

本橋 去年の二宮コールが聞きたいな(笑)。

二宮 あれ、なんであんなことになったんだろ…。



二宮 弘憲
No.4

玉井 勇気
No.8

早稲田大学 big bears

—相手のキーマンは

玉井 メンバーがあんまり変わってないんですけど、新しく入った一年生には注意が必要かなと思います。

二宮 僕も同じですね。新入生がどんなプレーをして慶應にいい流れを持ってくるのかが読めないんで、そこが怖いんですね。

本橋 一番ボールに絡んでくる大塚さん。あの人からオフェンスがはじまるっていう意味では、一番怖いかなと思います。後は玉井君のいやらしいスリーをなんとかしないと。

二宮 慶應キラー(笑)。

本橋 その慶應キラーをどうにかしないと、マジでヤバいかなって。

二宮 新しいあだ名付いたね、慶應キラー(笑)。

本橋 あとは、バランスが良い布陣だと思うんで、外だけじゃなくて中も頑張らないといけないです。全員能力があるんで、全員怖いっていう印象があります。

中島 下級生の頃から試合に出てる河上君がやっぱり怖いです。身体能力も高いですし、コンスタントに活躍してくる要なんで、僕がマッチアップするかは分からないんですけど、もししたときには仕事をさせないように頑張りたいと思います。

—自分のセールスポイントは

二宮 力強いプレーですね。

玉井 最近シュートにこだわってる訳ではないんで、やっぱりディフェンスですかね。ディフェンスやって走る所です。

本橋 中でのディフェンスとかりバウンドで頑張りたいと思ってます。

中島 スリーポイントとかですね。
——お互いのチームで似ている所は

本橋 いや、全然逆だと思ふ。

二宮 強いて言うなら、速攻出そうとしているっていう点では似てると思います。

中島 でも、極端に違うっていうところはないよね。

玉井 似てもないけど極端に違うわけでもないよね。
——今年は代々木第二体育館での早慶戦ですが

玉井 断然代々木の方が盛り上がりますよ。

二宮 めっちゃ人くるしね。

玉井 一年生の時は慶應のホームで。

中島 めっちゃこっちホームみたいになったよね。

玉井 そう。やりにくかったです。

中島 代々木だと360度客が入りますし。

本橋 お客さんが近くに感じるような感じがするんで、お互いに臨場感を感じれます。

玉井 代々木のほうが気持ちいいよね。

二宮 なにより近い。

玉井 どちらのチームも同じくらいで行けるもんね。

中島 早稲田から慶應まで遠いもんね。

玉井 あの移動でやられました(笑)。

——話は変わりますが、お互いにコート外での交流はありますか

玉井 ありますよ。去年のリーグ戦のときに中島の所に泊まらせてもらって。

中島 スマブラしたもんね。

玉井 高校時代の付き合いで仲良い奴も沢山いるんで、結構交流はありますよ。仲は悪くないです。

本橋 一回はどっかであったことあるよね。

——皆さんにとって早慶戦とは

玉井 バスケやって一番大きくて気合の入る大会だと思います。リーグ戦とかも大事なんですけど、僕はやっぱり早慶戦が一番盛り上がるし、大事なんだ



と思います。

二宮 玉井と同じで、トーナメントやリーグ戦とは別に、一番気合の入る大会ですね。大学でバスケをやれば、誰もが一度は立ちたい場所なんじゃないかなと思います。

本橋 みんな言うことは同じなんだと思いますけど(笑)。早稲田と慶應っていうチームに所属しているからこそ出来る試合なので、そういう意味では特別だと思いますし。70回やっている歴史とか早慶戦という名前の戦い自体が社会で広く認知されていますし、そういった意味でも負けられない、気合の入る試合です。

中島 大学を決める時に早慶戦のDVDに感銘を受けて、この舞台でやりたいと思って慶應を選んだので、込める思いは強いですね。あと、この舞台に立って活躍して勝つっていう、良い結果を残したいなと思います。

——最後に意気込みをお願いします

玉井 全力でやって、自分自身が楽しんで、お互いに良い試合をして終わりたいと思います。

二宮 ただ単に勝ちたいです。初めてのメインメンバーとして臨む早慶戦なんで、そういう意味でも勝ちたいです。それだけです。

本橋 一番はやっぱり勝ちたいっていうことで。それに付随して、自分自身で早慶戦の雰囲気を楽しみたいっていうのと、来ているお客さんに楽しんでもらえるように頑張りたいと思います。

中島 秋シーズンに良い結果を残していく為にも、この早慶戦は大事だと思いますし、個人としても過去2年間で良い活躍が出来ていないんで、頑張りたいと思います。

——初めての早慶戦の感想は

権田 付属校出身なので、高1の頃から結構見ていました。だから雰囲気は何となくわかっていました。

木村 慶應とやるいつものような試合だと思っていたんで、凄い雰囲気にちょっとビビりました。緊張しました。

伊藤 学生生活の中で一番大きな大会だと感じました。

平野 去年はベンチから盛り上げていたんですけど、伊藤君、木村君の活躍を見て、非常に歯痒かったという思い出があります。今年はやっぱりコートに立って慶應をぎゃふんと言わしてやりたいですね。

——早慶戦のエピソード、コートに立った選手はどのような心境でしたか

伊藤 学校を背負っているって凄く感じました。早稲田には負けたくないという気持ちを凄く感じた試合でした。人が多くてとにかく緊張します。

平野 チアリーディング部の方々が来ていて、とても華やかな大会だなと感じました(笑)。

木村 試合に出ることができたんですけど、試合に集中できなくて、倉石さんに怒られてボトル投げつけられました。それが一番の思い出ですね。

権田 僕はちょっとしか出られなかったんですけど、今年もし出ることができたら去年以上の活躍をしたいなと思います。



権田 隆人
No.13

伊藤 良太
No.16

慶應義塾大学 UNICORNS

——お互いのキャラクターについて教えてください

木村 平野君は洛南のキャプテンで、僕等の見本みたいな感じでしたね(笑)。平野君は1年から3年まで自主練も最後まで残っていましたし、練習、自主練含めて自分を高めることをやっていたので、僕等のよき目標であり引っ張ってってくれる存在でもありましたね。僕は平野君のことを“尊敬”しています(笑)。

平野 どんどん来い(笑)。

伊藤 木村君はほんとにお調子者で、練習も集中しないし、先生が来たときしか集中しないんですよ(笑)。あ、とりあえずAKBが大好きです(笑)。

平野 しかも“まゆゆ”推しです。

伊藤 そうそう、まゆゆ推し。ここ大きくして下さい(笑)。

平野 ロリコンなんです。木村さんは(笑)。

木村 それは良いですよ。公言してるんで(笑)。

伊藤 まあ、バスケットのことになるとまじめで紳士的に練習して・・・。

木村 嘘付けお前(笑)。

伊藤 シュートうまくて、エースだったんで。

平野 伊藤君に関しては・・・特にないですね(笑)。彼に関しては、いつもこんな感じですよ(笑)。

木村 伊藤君は・・・なんだろうね・・・。

伊藤 ほめて、ほめて。

木村 ... (笑)

平野 伊藤君は、何ですかね・・・でも、バスケットに関しては真面目なんですけど・・・。

伊藤 おい！おい！これやばい！(笑)

平野 私生活がほんとに・・・ライフスタイルがアメリカにいたこともあって、アメリカンなんです。

木村 何もかもがね(笑)。

伊藤 やめろ、やめろ。これやばい！これ怖すぎる。

平野 靴下を右左違うの履いてきちゃうみたいな

伊藤 それはちょっと朝眠かったというね。まあ、全部信じないでください。

平野 歯磨きもしません(笑)。

伊藤 それは！(焦り笑い)それはしています。

平野 後ですね、彼もお調子者なんですけど、友達が非常に多いですね。

権田 確かに。

平野 あと・・・なんかある？あつ、NBAが大好きだね。

伊藤 まあまあ、うーん、お調子者か・・・

権田 お調子者で、友達多いよね。

平野 先輩とかにすぐ媚売るんで(笑)。

木村 ああ、それはある(笑)。ゴマすって生きてる感じですね(笑)。

伊藤 もうやめましょ！次、つぎ！(笑)これはもういいこと出てこない。

平野 もうでてこないですね(笑)。

平野 あれ、権田君も洛南だよ？(笑)

権田 違う、違う。

木村 権田君は東京選抜で一緒だったんですけど、勉強もできて、バスケットもできて“できる男”ですかね。

全員 おー！！

権田 あ、ありがとう(照れ笑い)。

伊藤 でも、私生活はそんなことないですよ！(笑)

権田 いやいや、真面目じゃん。

伊藤 オフの日は何してるかわかんないですよ。

木村 謎多き人。

伊藤 うん、謎多いです本当に。自分持ってるんで本当に。

——洛南の3選手は今でも交流はありますか

平野 ありますよ。僕、良太とこの前渋谷でディナーしました。渋谷のイタリアンな店でディナーです。

伊藤 そうですね、僕と平野は仲良いですけど、ちょっと木村は(笑)。

木村 彼らは高校時代トレーニングパートナーだったんですよ。もう一線を越えた関係って感じで。僕はそこには入らなかったの、関わりがないというか(笑)。

——オフの日は何をしていますか

平野 僕は河上さんと一緒にウイイレしています。河上さん早稲田ではウイイレ強いみたいになってるん



平野 哲朗
No.27

木村 晃大
No.15

早稲田大学 big bears

ですけど、もはや僕のほうが上です。ちなみに木村もやるんですけど、こいつは雑魚です。7-0とかです。ちなみに僕はインテルを使うってこと強調しといてください(笑)。

木村 最近対戦してないんであれですけど、近々ウイイレも早慶戦みたいな感じで開こうかなって思っています。

伊藤 僕は温泉行ってます。遠くて箱根とか、友達と行きます。でも、基本自主練しています。

権田 俺インドア派だから、家で一日中テレビとか見て終わります(笑)。

——趣味はありますか

木村 僕はチームメイトの武津(祐太郎=文講2・大分舞鶴)をいじることが大好きです。武津は面白いやつなんで、どんどん魅力をだしていかないとダメなんですけど、僕らが率先して良さを出している感じですかね。平野君も一緒にね。

平野 そうですね。木村は最近おしゃれに目覚めていて、武津もなんですけど、木村は本学のファッションリーダーなんで(笑)。原宿系です、190センチの原宿系です(笑)。

権田 僕はスポーツ観戦ですかね。どんなスポーツも好きなので。特にサッカーとアメフトはよくみます。

平野 僕は趣味ゲームです。

木村 どういうキャラ？ゲーマーみたいになってるけど(笑)。

伊藤 僕はバスケット。

一同 うわー。でたよ、そういうの。

伊藤 まあ友達と食事とかします。

——慶應の選手から見た早稲田のプレーはどんな感じですか

権田 すごい走る。スピードがあるので。気を付けないとなって感じです。

伊藤 みんな一人ひとりがバスケットわかっているの、大変です。

——早稲田の選手から見た慶應は

木村 慶應もよく走るイメージあります。すごい積極的にくるので、気が抜けないというか、常にリングを狙ってる感があります。特に権田君とか、スナイパーです(笑)。あと伊藤も高校のときから知ってるんで、彼に要注意だなって感じです。

——それぞれの大学を選んだ理由はなんですか

平野 早稲田は学校的にも良い学校ですし、バスケットも僕らが入るときに丁度一部に上がったので、強いってことですかね。

伊藤 自分は中学から慶應に行きたくて憧れていたのと、練習に参加してチームで勝つって感じがよかったので決めました。

木村 僕は尊敬してやまない平野君が早稲田に行くって聞いたので、平野と二人で天下とろうって思いました。

平野 まあ僕もそういうことですね。

権田 僕は高校から慶應だったので。まあ高校選ぶときに慶應大学がついてるっていうのも考えて入ったんですけど、そのときも慶應大学のバスケットす

ごくかっこいいなっていうのがあって、決めました。
——チームのキープレイヤー

平野 中心は大塚さんだと思うんですけど、キーは二宮さんだと思います。二宮さんが爆発してくれると勢いがでるんで。

木村 僕もそう思うんですけど、河上さんもキープレイヤーかなと。

権田 本橋さんかなと思います。本橋さんがいいプレーをすると、チームももっと安定すると思うので。あとは伊藤君ですかね。どれだけチームをまとめてくれるかに懸っていると思います。

伊藤 本橋さんですね。二宮さんと同じで本橋さんが乗ってくれたら、チームも勢いづくと思うので。
——自分の見てほしいプレー

平野 僕はベンチにいる時から注目してほしいですね。盛り上げている元気な所を見てほしいです。プレーではディフェンスとオフェンスリバウンドです。

木村 今チームの課題がフリースローなので、確実に決めるフリースローを見てほしいです。あまり得意じゃないのでフリースロー決めたいです。

伊藤 僕もフリースロー決めたいです。去年外してしまったので。

権田 僕はシュートをどんどん打っていきたいので、そこを見てほしいです。

——早慶戦への意気込み

平野 去年いい形で勝てたので、今年もそれに引き続き慶應を圧倒できるように頑張りたいと思います。

権田 去年ああいう形で負けたので、今年の慶應は違うという所を見せたいと思います。

伊藤 去年負けたので、絶対勝ちたいと思います。マッチアップが大塚さんになると思うので、少しでも倒せるように頑張ります。

木村 1つでもチームに貢献できるプレーができるように、全力をだしてこの伝統の早慶戦という場に立てるといふ喜びを胸にしっかりと戦っていきたいと思います。



早慶

ランキング対決!



5年ぶりに復活した早慶ランキング対決。選手の中で〇〇なのは誰か? という質問を両大学の選手にアンケート。大学別に、得票数に応じてランキングした。項目は、「ガッツがあるのは?」、「モテるのは?」、「ダンクがかっこいいのは?」、「面白いキャラは?」、「バスケをしている時普段のギャップがあるのは?」の5つである。バスケに関することから私生活に至るまで、選手の知られざる一面を垣間見ることが出来るこの企画は必見!!

1. ガッツがあるのは?



- 1位 野呂 昇平 (4年・F・法) 14票
- 2位 矢嶋 瞭 (3年・F・総政) 12票
- 3位 平石 健斗 (3年・G・環情) 7票



野呂 昇平

ガッツ溢れる部員を毎年数多く輩出している本塾だが、今年も勿論多くの部員が素晴らしいガッツを持ち合わせている。その本塾の中で一番気持ちを前面に出して戦うのが野呂だ。Mr.ガッツという称号はこの男のためにあると言って良いだろう。その真骨頂はリバウンド。決して身長が高いわけではないが、ガッツを武器にどんなリバウンドももぎ取る。その姿勢は『リバウンドはハートでとるもの』ということを教えてくれる。又、野呂がレイアップを打つ際のガッツあふれる顔にも注目してほしい。2位に名前が挙がったのは矢嶋である。美しいシュート・持ち味であるランニングプレイなど華のあるプレイに加え、ルーズボールに誰よりも早くダイブする。その姿勢に感銘を受け、矢嶋を慕う後輩は数知れず。矢嶋のガッツあふれるプレイは幾度となく本塾に勝利をもたらしてきた。3位に入ったのは、平石だ。ウエイトトレーニングに誰よりも熱心に取り組み、試合に出るとハッスルプレイでチームに流れをもたらす。苦しい場面で声を出し、チームを鼓舞する姿には仲間からの信頼も厚い。

- 1位 藤原 龍介 (4年・F・人科) 11票
- 2位 吉岡 修平 (2年・G・スポ) 4票
- 3位 中道 啓太 (4年・F・法) & 二宮 弘憲 (3年・C・スポ) 2票



藤原 龍介

バスケットボールに限らず、スポーツにおいて大切な「心・技・体」。その「心」の部分で、日頃からガッツあふれるプレイをし、早稲田ナンバー1の称号に輝いたのが、藤原だ。彼はリバウンドやルーズボールに何度も飛び込み、チームの士気を高める。また、プレイ面だけでなく、叱咤激励のために味方への声かけも忘れない。地道なプレイに、チームを想う熱い気持ちを併せ持つ、それが早稲田のガッツ王、藤原なのだ。その藤原に次いで、2位になったのが吉岡である。前からプレッシャーを与え続ける、彼のディフェンスは非常に粘り強く、かつ激しい。その根幹にあるのは「相手に負けたくない!」という強い気持ちである。また、練習から積極的に声を出す吉岡は、チームを盛り上げるための一役を担う。同数の票を獲得し、中道と二宮が3位に入る。彼らに共通するのは、インサイドのプレイヤーであること。攻守にわたって体を張り、チームの下支えをする彼らに、ガッツがあるのは言うまでもない。



2. モテるのは?



- 1位 田中 貴啓 (3年・G・環情) 15票
- 2位 伊藤 良太 (2年・G・環情) 14票
- 3位 齊藤 優 (4年・F・経) 3票

本塾のNo.1モテ男といえば田中だろう。普段はクールでおとなしいが、テンションが上がると急に騒ぎ出す。そんな子供な一面から繰り出される『田中スマイル』に何人の女性が落とされたことか。私服もおしゃれで、狙った獲物は逃さない。ひたむきなプレイに心を奪われるものも多く、特に年上からの人気は絶大で、年上キラーの名をほしいままにしている。そして、田中と双璧をなすのが伊藤だ。キャンパスで伊藤を見かけると必ず隣に女性がいるという話は有名な話だが、それも頷けるだろう。コートでは冷静にゲームをコントロールし、私生活では女性の心を掌握しているのだから。みなさん、伊藤には気を付けてください! そして、モテる男といって外せないのは、齊藤だ。ファッションに関して人一倍気を遣い、女性の心理の勉強も欠かさない。いくら聞いても飽きないトーク力と聞き上手な面を併せ持つモテるべくして生まれてきた男といえるだろう。最高到達点 325cmの跳躍力を活かしたアクロバティックなプレイに惚れる者も少なくない。



田中 貴啓

- 1位 河上 宗平 (3年・F・人科) 13票
- 2位 木村 晃大 (2年・F・スポ) 8票
- 3位 池田慶次郎 (1年・G・社) 2票



河上 宗平

早稲田大学バスケットボール男子部の中で、プレイ以外にも観客を魅了する早稲田のイケメンたちを紹介したい。栄えある早稲田のモテる男ランキング1位を獲得したのは、河上だ。早稲田のエースとして活躍する河上は、得点・リバウンド・ブロックと幅広くチームを牽引する。一方で、その甘いマスクに、「あまり多くを語らない雰囲気がかっこいい」と多くの選手から支持を得た。是非、彼を一目見るために代々木まで足を運んでほしい。そのエース河上と5票差で、2位になったのが木村。彼の非常に落ち着いたプレイは、バスケットボールに対する理解度の高さを窺わせる。私生活では、ファッションセンスが光り、所沢キャンパスでの支持率の高さがこの結果に繋がったと思われる。3位に入った早稲田の新戦力、池田は主力の一人としてオフェンス、ディフェンス共にチームに貢献する貴重な存在だ。バスケの技術に加えて、端正な顔立ちから既に多くの観客を魅了する彼は、一年生。まだまだこれからの選手であり、今後の成長と活躍、そして次回のランキングが楽しみである。



3. ダンクがかっこいいのは?



- 1位 本橋 裕典 (4年・C・環情) 25票
- 2位 桂 竜馬 (4年・F・法) 5票
- 3位 真木 達 (1年・G・環情) 2票

バスケットボールの中で最も華やかなプレー、それがダンクシュートだ。誰もが憧れるダンクシュートをいとも簡単に決めてしまう本塾の部員を紹介しよう。強烈なボースハンドダンクシュートを決めるのが、本橋だ。その巨体からは想像できないジャンプ力で迫力あるダンクを繰り出す。本塾のゴール下を支配する本橋のダイナミックなダンクは必見だ。本塾の主将・桂も負けてはいない。時折見せるワンハンドダンクシュートは、彼の優しさからは想像できない程、力強い。3位には真木を挙げさせてもらう。垂直飛び90cmの驚異的ジャンプ力を誇る真木のダンクは一見の価値あり。跳躍力をフルに活かしたダンクは度肝を抜くこと間違いなしだ。



本橋 裕典

- 1位 中道 啓太 (4年・F・法) 17票
- 2位 河上 宗平 (3年・F・人科) 15票
- 3位 該当者なし



中道 啓太

バスケットボールの魅力といえば、迫力あるダンクシュートだろう。早稲田の中で最もかっこよくダンクを決める男に選ばれたのが、ガッツ部門で3位にランクインした中道である。鋼のような肉体から繰り出される、力の限りリングに叩き込む彼のダンクシュートは豪快の一言。過去、スリーメンにおいてボースハンドのバックダンクを披露した衝撃は忘れることができない。惜しくも2票差で1位を逃した河上は、中道とは対照的に恵まれた身体能力を存分に生かし、まるでレイアップを打つかのように軽々と決める。高いジャンプから華麗に決める彼のダンクシュートは、一度は見ておきたい。今回、3位は該当者がなく、中道・河上両選手の一騎打ちとなった。



早慶

ランキング対決!

4. 面白いのは?

- 1位 八島 太郎 (2年・G・商) 14票
- 2位 清家 智 (1年・F・経) 12票
- 3位 大槻 健 (4年・主務・商) 4票



八島 太郎

最も熾烈な本塾の面白いランキング。その中で堂々の1位を獲得したのは、八島だ。笑いに厳しい関西大学から爆笑を誘った一発芸『生きてる』シリーズは天下一品。身を呈した笑いでチームを盛り上げる。彼を見かけたらは非一発芸を振ってあげてほしい。

僅差で1位を逃したのが、清家だ。コートでは泥臭いプレイで貢献するプレイヤーだが、『清家智の全力一発芸』で一躍全国区に。その独創性と笑いに対する真摯な態度には目を見張るものがある。入部してからまだ2カ月だが、そのポテンシャルを如何なく発揮し、チームに欠かせない存在となっている。

そして3位に名前が挙がったのは、主務の大槻だ。チームを陰で支える存在だが、名門・洛南高校出身カルテットの長男として、関西仕込みの絶妙なつつこみを繰り出す。練りこまれたボケと的確なつつこみ。正にお笑い伝道師と言えるだろう。

早

- 1位 中道 啓太 (4年・F・法) 13票
- 2位 中島 渉 (2年・F・スポ) 3票
- 3位 中島 英之 (4年・G・スポ) & 平野 哲朗 (2年・F・人科) & 二宮 弘憲 (3年・C・スポ) 2票



中島 渉

早稲田で面白いのは誰か。全体的に票が割れるこの部門の中でダントツのトップを獲得し、「ダンクがかっこいいのは？」と二冠を達成した中道。豪快で力強いプレイとは違って変わって、普段の彼は非常に天然である。1テンポ遅れての突っ込みや会話など、あまりの天然ぶりに周囲を驚かせることも多く、選手の中には彼の全てが面白いという意見もあるほどだ。そんな中道に次いで3票獲得し、2位にラン

インした中島渉は非常にノリが良く、常に仲間の笑いを誘う彼の行動はチームの雰囲気作りに力を発揮している。3位には同数で中島英之、平野、二宮が名を連ねた。3名ともノリ、突っ込み、行動の面白さは定評があり、早稲田の、笑いのレベルの高さを感じさせる。

5. バスケしている時と普段のギャップが大きいのは?

- 1位 蛭名 涼 (1年・G・法) 12票
- 2位 大元 孝文 (2年・G・環情) 4票
- 3位 成瀬 啓祐 (3年・学生コーチ・経) 3票



蛭名 涼

本塾が誇る個性豊かなギャップ持ちの部員たちを紹介しよう。

蛭名だ。ベンチプレス120kgを上げる筋骨隆々な体とは似つかず、甘い物好きでアニメ鑑賞が趣味である。ギャップ界のニューフェイス・大元はコートに立つとベテランの風格を漂わせ、美しいジャンプシュートを決めるが、コート外では陽気な大学1年生。お笑い芸人の真似をするのが大好きで様々なコミカルな動きを繰り出す。

3位は学生コーチの成瀬。現在は試合中、学生コーチとして厳しい表情で試合を見ているが、慶應NY高校時代は『ハッピーさん』と呼ばれ、高校を代表するエンターティナーだった。バスケットの実力も折り紙つきで、アメリカでは選抜にも選ばれたほど。ベンチで魅せるパフォーマンスにも注目してほしい。

早

- 1位 山本 純平 (1年・F・スポ) 12票
- 2位 中島 渉 (2年・F・スポ) 4票
- 3位 中野 瑛介 (2年・G・教育) & 二宮 弘憲 (3年・C・スポ) 3票



山本 純平

大学生生活の多くの時間を過ごし、バスケットボールに打ち込む彼らも、ひとたびコートを離れば一学生となる。そんなバスケをしている時と普段の生活のギャップを最も大きい選手が早稲田のニューフェイス、山本である。コート上での彼は相手と競り合いながらもリバウンドを奪取し、気迫あふれるプレイを見せる。その一方、普段の山本は物静かで控えめな性格。この差が票を集めた。同様に2位の

中島渉も普段はおとなしい性格ながらも、バスケットとなると熱くなり、早大バスケ部にとって頼もしい存在になる。同数票で3位となった中野と二宮。中野の「普段はゆるく、バスケはしっかりする、その姿勢にギャップを感じる人も多い。また二宮は、バスケではガッツあふれる体を張ったプレイを見せる一方で、非常に後輩想いの、優しい心の持ち主なのだ。